

NPO 法人田村明記念・まちづくり研究会 公開研究会
『まちづくり伝道師田村明との出会い・姫路からの報告』

三木基弘（元姫路市職員）

2018年1月22日（月）午後5時より6時30分
横浜市民活動支援センター4階セミナールーム2号

1 はじめに～出会い

「ひらがなの「まちづくり」という言葉を使った。」
「自然の中での人間の営みとして多様な人が集まり、都市ができる。」
（『成熟し、人はますます若くなる』（平成20（2008）年5月21日
発行、NTT出版から）。

田村明という方の存在は、お会いする以前に人からお聞きしていました。その方から、人間としての素晴らしさと活躍ぶりを私に話した方がいたからです。その上で、機会があれば一度お会いしてみるように薦められていました。

私が田村明先生（以下、先生と記します。）にお会いできたのは、昭和61（1986）年です。当時先生は、自治体学会の設立に奔走されておられ、その前に横浜と神戸で「自治体学フォーラム」の催しを開かれるという情報を得ました。私は、どうかして一度お会いしたいものだと願ってから、様々な情報を得るためにアンテナを立てていました。その甲斐があって、神戸で開かれる「自治体フォーラム」に出席しました。その年の2月12日です。その催しが終了してから、交流会がありました。私は都市と行政の研究仲間とその会場で、先生にご挨拶しました。まるで夢見ごこちでした。先生にお会いしたいと願っていたのは、私共だけではありません。多くの方々が出会いを待っておられたので、名刺を交換だけさせて戴きました。

あれから、先生が永眠されるまで25年に亘りお世話になりました。私は勝手な押しかけ弟子と思っています。飛び飛びの日々ですが、この間、先生から多くを学ばせていただきました。今日私がこの発表させていただく機会を得たのは、私が姫路に在って先生が立ち寄られる度に教えを受けた内容を、この場におられる方にお話ししたかったからです。少しの間、お付き合いをお願いします。

2 姫路を観る

先生が初めて私共を訪ねて姫路へ来られたのは、昭和61（1986）年3月25日です。その日私の職場に電話がかかり、偶然私が直接お受けしました。私は先生のお声が直ぐに分かりました。先生は広島に用事（確か広島大学と記憶しています。）があり、その後姫路に立ち寄られる内容でした。到着時間もお聞きしました。只実際に先生が来られたのは、その約1時間後でした。その訳をお聞きしてみると、岡山駅から各停の

電車で来られたということでした。先生は「岡山と兵庫の県境が分かった」と言われました。乗降客の動きと話している方言が決め手だと、言われました。私は、そのお話に引き込まれ感心しきりでした。

翌日、研究会仲間の案内で姫路城や周辺の街並みをご案内しました(私は参加できていません)。幾つもお案内した中で、先生が興味を持たれた場所がありました。それは障害者が活躍している小さな会社でした。姫路ICS(アイシーエス・ウェルファ)という会社です。ここは姫路市と一般企業が協力して運営している会社で、障害者が障害者施設の運営に必要な事務をパソコンで処理するプログラムを作る会社です。これに興味を示された先生は、後日ご自分の編集された本の中で一文を加えてくださいました。それが『シリーズ自治を創る12・自治体の政策形成』(田村明編著・1989年9月1日発行・学陽書房)です。研究会仲間が一所懸命に書いた論文がその中の一編として掲載されました。

先生は、その後度々姫路に立ち寄られました。その際に私が気を付けていたことが幾つかあります。一つは、仲間とお会いすることでした。多くの仲間と情報を共有し、誰かがその仕事を通じて「まちづくり」を実践することが出来るからです。多くの職員と情報を共有しておれば、誰かが先生の教えを姫路市政の中で役立ててくれる可能性があると考えたためです。実際に、その後何人もの職員が先生の教えを基に活躍してきたと私は考えています。

○「第56回全国都市問題会議～都市の個性―歴史・文化と新しい都市の創造」(全国市長会・東京市政調査会・日本都市センター・姫路市主催)

基調講演、田村先生。平成6年(1994)年10月13日姫路市で開催。

○姫路のまちは幕の内弁当のようだ

先生の感想です。先生はこの日以降も何度も姫路を訪れ、街並みや意匠、そこに住む人々を見続けて来られました。その上でのお言葉です。その意味は、お城を中心として幾つかのまちは一点豪華な特色を持ちつつ成り立っているということでしょう。

あるとき、現姫路市長のことを聞いてみたことがありました。先生によりますと「大抵のまちづくり論文には目を通してている。その名前は聞いたことがない。」という返事だった。先生が亡くなられる少し前だったと記憶します。

○姫路で建設省の役人と論争

先生が何度か姫路へ来られたときの話です。研究会仲間と会食後二次会へ行ったとき、偶然同じ店に建設省から姫路市へ来ている役人がいました。姫路市役所でそれなりの役職にありました。その人が先生を認めると、酔った勢いで論争してきました。当時は横浜の高速道路地下化について建設省の一部役人が先生にわだかまりを有していた時期でした。私にとって先生は大切な方なので、この論争(言いがかり)は迷惑な話でした。夜遅くまで続いたことでした。先生は負けずに反論されておら

れました。申し訳ない思い出です。

○現在の姫路市立図書館の蔵書（先生関係）

姫路市立の図書館には、先生の著書が現在14冊収蔵されています。

- ・『文化行政とまちづくり』時事通信社、1983年。
 - ・『まちづくりと景観』岩波書店、2005年。
 - ・『自治体学入門』岩波書店、2000年。
 - ・『まちづくりの実践』岩波書店、2000年。
 - ・『イギリスは奥が深い』東洋経済新報社、1998年。
 - ・『まちづくりの発想』岩波書店、1987年。
 - ・『地方自治体21世紀に向けて』総合労働研究所、1984年。
 - ・『都市の個性とはなにか』岩波書店、1984年。
 - ・『都市ヨコハマをつくる』中央公論社、1983年。
 - ・『地域の自立をめざして』公人社、1988年。
 - ・『都市ヨコハマ物語』時事通信社、1989年。
 - ・『美しい都市景観をつくるアーバンデザイン』朝日新聞社、1997年。
 - ・『イギリスは豊かなり』東洋経済新報社、1989年。
 - ・『自治体の政策形成』学陽書房、1989年。
 - ・他資料『成熟し、人はますます若くなる』佐藤友美子編著、田村明一部執筆、NTT出版、2008年。
 - ・『アンダーグラウンド～都市の地下はどうつくられているか』デビッド・マコーレイ著、田村明訳、岩波書店。1981年。
- 横浜市の場合は、検索による数字ですが60冊余りあります。

○姫路市の記載（先生の著書の中で）

宅地の乱開発を防ぐ条例が紹介されている（『自治体学入門』平成14（200）年2月18日発行、岩波書店。

3 まちを観る縦軸と横軸

「私はどこの地域とつきあうときも、その地域や都市の概略を調べた。」
「歴史の存在はその都市の風格を決める。」（『田村明の闘い』（平成18（2006）年12月10日発行、学芸出版社）

「どこの都市でも、計画をたてるときには、私はまず都市の歴史から勉強する。」（『都市ヨコハマ物語』）。

「戦後の1948年に、赤坂区は港区に変わった。」「青山高樹町は南青山という無粋な名前に変わった。一番の原点になる地名を簡単に変えてしまうのは困ったものだ。」（『東京っ子の原風景』）

○そのまちの歴史を知る

私が先生とご一緒させていただいた都市は、姫路を含め主なところは次の場所です。

平成11(1999)年8月21日	岡山県津山市	再開発ビル
同 8月22日	岡山県大原町	宮本武蔵駅、大原宿
平成12(2000)年3月23日	岡山市	岡山のまち
平成17(2005)年11月16日	岡山市	道州制会議

・岡山県・道州制会議（前述） 正式名は「美しい日本の未来をつくる～完全自治の州制とコミュニテイの復権」岡山県立美術館ホールで開催された会議で日本の未来をつくる会主催の催しでした。先生はの中で司会を務められていました。私がこの会議に出席できたのは、先生から届いたハガキに依ります。先生から手書きのハガキを受け取り、出かけましたが、入り口で関係者以外お断りと言われた会議です。警戒感がありました。先生からの手紙を見せると責任者が対応し入場させてくれました。そのハガキと交換でした。岡山県は中国地方で広島県に次ぐ第二の人口規模です。広島に負けまいという意識からでしょうか。

「分かりやすく言ってしまうと「連邦制」ということである。」「自治体学」の立場からすると、これから広域自治体論の一環として研究されるべき課題だといえよう。」（『自治体学入門』）。

○他都市を観る

自分の住むまちの特色を知るためには、他の都市と比較することも大切です。先生はよく他都市を訪問されました。それぞれのまちを歩き、そこに住む人の話に耳を傾けておられました。また街並みのストリートファニチャーなどを観察されました。

例えば、城を観る。次に離れた場所から城をまた観る。歩きながら現在の構築物と城の関係性を観る、といった具合です。道を歩けば、外灯や信号機、ごみ箱、掲示板、案内板などは先生がよくカメラに写されておられました。

・兵庫県南部大地震 この地震が起きてから23年が経過しました。この地震が起きて約半年後、先生は神戸を観たいと言ってこられました。当時は神戸中心部が不通でした。何でも神戸市役所旧館は先生の友人が設計された由、その3階部分がペしゃんこに壊れたと聞いてのことです。当時は、神戸市役所職員に頼んで案内をしてもらいました。また先生は、ポートアイランドにも行かれて液状化現象の中を歩かれています。

4 都市に完成はない～先生との思い出

「都市は永久に生きて、動いている。」

「僕の都市論は、二十二世紀論です。」

「必ず21世紀中に大きな断絶がある。断絶の先の新しい文明を考えておかなければいけない。」（前掲1と同じ）

○法政大学退職記念講義への招待

先生が法政大学を去られる前の講義でした。この書状を受け取ったことは、私にとって非常に嬉しいことでした。只、所用のため欠席せざるを得なかった苦い思い出となっています。

○総理大臣と会う（村山富市）

兵庫県南部大地震現場を見に来られる少し前に、時の首相と会って進言されたとお聞きしました。ご活躍の最中のことと思いました。

○天皇陛下へ御進講

先生からは年賀状ではなく、時折寒中見舞いが届きました。ある年、

都市問題について御進講をされた内容のハガキを受け取りました。

○少年講談

「学校では少年講談というのが流行っていた。」「他の兄弟はこの少年講談の洗礼を受けなかったようだが、私はおかげでずい分雑学的知識が身についた」(『東京っ子の原風景』)。

○古寺巡礼

「和辻哲郎の『古寺巡礼』も読んだ。キリスト教の田村家では、仏像などにはおよそ関心はなかったのだが、こうして本物を見ると、どれも素晴らしい。日本文化の奥深さはやはりここにある。」(『東京っ子の原風景』)。

○内村鑑三の無協会派

岡山県津山市に「つやまふしぎ館」があります。津山城の南に位置する個人博物館です。ここは内村鑑三の無協会派に加わった森本敬三氏が個人で創った館で、隣の資料館も同じです。この館内に当時の無協会派の方々の集合写真が飾ってあります。ひょっとしたら先生の父親かゆかりの人が一緒に写っているのではないかと想像しております。先に先生のお別れ式に参列させていただいた際、内村鑑三の名前に親近感を覚えていました。

○「市民政府」の考え方

現在は、ときどき地方議員が政務活動費をごまかして責任を追及される報道をみます。このことは地方の権限強化と言いながら、責任ある行動ができない関係者がいることを示しています。先生は、住民と市民を分けて考えておられ、市民の責任ある行動を求められてきました。今後我が国で、市民政府の考え方が深まっていくよう夫々が努力を重ねたいと願う今日です。